

「住民の方との対話」を目的に、まちかどインタビューを掲載しています。

葛窪地区では、集落全体を「まるごとミュージアム」にしようという構想をもとに集落内の整備が行われています。その経過をよくご存知で、運動の仕掛け人になった平出清仁さんにお話を伺いました。

○発端はどんな事にあつたのでしょうか？

平成3年ごろに富士見町に戻ってくると、学校道は草ぼうぼうで、あちらこちらが荒れていました。サルビアで葛窪地区を真っ赤にしようと呼びかけました。これに、子供



葛窪の  
平出清仁さん

葛窪地区の「まるごとミュージアム構想」は、平成3年の花いっぱい運動から始まった

○まるごとミュージアム構想はいいつから始まったのですか？

平成11年、集落内の景観を守るために、関係地権者によ

から高齢者クラブなど、区内の人々の参加が得られ、各家庭にもプランターを配り「花いっぱい運動」が始まりました。その後、花言葉で「春を告げる強い花」といわれる杏（あんず）あやかり、強い集落にしたいという願いを込め、村中に植栽しました。今年2百キロ近く杏の実が収穫されました。



平出さん手作りの  
ミュージアム構想資料

○今後の構想は？

集落内に点在する葛窪の宝（サテライト）をつなぐ道や施設の整備は終わりました。これからは、かくれた資源（アジール）を生かし、誰でもが楽しんで歩けるマップ作りになんと取り組む予定です。また、実際にみんなで歩く企画もしたいですね。

つて住民協定が結ばれました。同じ年に、田園空間整備事業などを利用して、区内全体を公園化しようという計画が作成されました。これは、地元の負担は5%で行われる事業で、平成15年から実施が始まり、道路・公会堂（安楽院）・舞屋などの整備をしました。

## 編集後記

昨年一年を漢字で表すと「変」でした。政治・経済・生活・気候、色々なところで、色々な意味でも「変」化の多かった年でありました。そして今年は、平和で希望のもてる社会に「変」わってほしいとの願望も込められていたそうです。

特に非正規労働者の大量解雇、年の暮れに寮から路頭に追い出されているというのに心が痛みます。昔は、製造業では正規労働者ばかりで、こんなことはなかったのに。歴史の前進の中で、労働形態の後退が。私たちは、おのずと政治にかかわらざるを得なくなっています。

今年こそ是非正規労働者の未来にも希望のもてる年に「変」化を、そう願いたいものです。

### ■議会広報編集委員会

編集委員長 小林 光  
副委員長 名取 武一  
委員 エンジエル千代子  
〃 織田 昭雄

ふじみ議会だよりは、議会ホームページにも掲載されています。